キ　音長拡大

音長拡大は、数値パラメタにより直続する１組の音高音長符号の音長を拡大する。

拡大は､数値パラメタで示した数を音長に乗じて行うものとする。

ク　タイ*

タイは、数値パラメタにより直続する２組以上の音高音長符号又は音長拡大符号により拡大された音高音長符号を連結し、最初の符号の音高を音高とし、全ての音長の和を音長とし、一の音とするものとする。

連結する音高音長符号の組の数をパラメタで示す。ただし、連結する音高音長符号数が２組の場合はパラメタを省略可能とする。

ケ　音番号*

音番号は、数値パラメタにより、一の付加音情報の音番号を指定し、各付加音開始の直前に送出する。

音番号は１～63の範囲で指定する。

非一括形番組の場合は、一のページデータ内において、一括形番組の場合には、番組データ内において、異なる付加音に対し同じ番号を指定しないものとする。

音番号のない付加音情報は､ページデータ内で送出するものとし､これを送出するデータユニット内では他の付加音情報は送出できないものとする。

また、音番号付き付加音情報を複数送出する場合、複数のデータユニットに分けて送出できるものとする。

コ　パラメタ終端

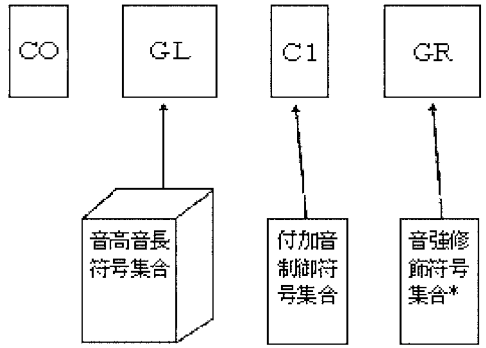
パラメタ終端は、⑶のアにかかわらず、タイ、音番号終端を示すものとする。

⑷　音ステータス番号*の発生

画面と音の同期をとるため､音ステータス番号を発生する｡音ステータス番号は、制御部パート開始の後にリズムパート音発生符号及び音長符号を送出することにより発生する。音ステータス番号は、リズムパート音発生符号ごとに１増加する（デフォルト値０）。

リズムパート音発生符号までの経過時間は、音休止符号の音長符号又はリズムパート音発生符号の音長符号により指定する。

別記第１　付加音符号集合の指示呼出し



別記第２　音高符号

					b_7	0	0	1	1	1	1
					b_6	1	1	0	0	1	1
					b_5	0	1	0	1	0	1
b_4	b_3	b_2	b_1		2	3	4	5	6	7
0	0	0	0	0	RST	C_2	E_3	$G_4^\sharp$	C_6	E_7
0	0	0	1	1	A_0	$C_2^\sharp$	F_3	A_4	$C_6^\sharp$	F_7
0	0	1	0	2	$A_0^\sharp$	D_2	$F_3^\sharp$	$A_4^\sharp$	D_6	$F_7^\sharp$
0	0	1	1	3	B_0	$D_2^\sharp$	G_3	B_4	$D_6^\sharp$	G_7
0	1	0	0	4	C_1	E_2	$G_3^\sharp$	C_5	E_6	$G_7^\sharp$
0	1	0	1	5	$C_1^\sharp$	F_2	A_3	$C_5^\sharp$	F_6	A_7
0	1	1	0	6	D_1	$F_2^\sharp$	$A_3^\sharp$	D_5	$F_6^\sharp$	$A_7^\sharp$
0	1	1	1	7	$D_1^\sharp$	G_2	B_3	$D_5^\sharp$	G_6	B_7
1	0	0	0	8	E_1	$G_2^\sharp$	C_4	E_5	$G_6^\sharp$	C_8
1	0	0	1	9	F_1	A_2	$C_4^\sharp$	F_5	A_6	
1	0	1	0	10	$F_1^\sharp$	$A_2^\sharp$	D_4	$F_5^\sharp$	$A_6^\sharp$	
1	0	1	1	11	G_1	B_2	$D_4^\sharp$	G_5	B_6	
1	1	0	0	12	$G_1^\sharp$	C_3	E_4	$G_5^\sharp$	C_7	
1	1	0	1	13	A_1	$C_3^\sharp$	F_4	A_5	$C_7^\sharp$	
1	1	1	0	14	$A_1^\sharp$	D_3	$F_4^\sharp$	$A_5^\sharp$	D_7	
1	1	1	1	15	B_1	$D_3^\sharp$	G_4	B_5	$D_7^\sharp$	IP

注１　ＲＳＴ：音休止符号
　　ＩＰ：リズムパート音発生符号（音の高さを特定しない音の発生を示す符号）
　　Ａ０～Ｃ８：12音平均律音階による音の高さ
　２　列番号及び行番号と周波数の関係は、次式に示すとおりとする。
　　ｆ＝440×２{(Ｉ－81）／12}
　　ｆ：周波数（Hz)、Ｉ：ｂ７からｂ１までにより表す２進値